

コード	401030701
記入日	H25.6.6

課コード	116
課名	水産課
課長名	石司 泰栄
担当者	濱崎 義高

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 25 年度
------	----------

評価対象事業名称	道士井漁港（真手ノ浦地区）集落道整備事業
----------	----------------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 24 年度 ～ 平成 29 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	401	施策名称	水産業の振興	項コード	3
基本事業コード	40103	基本事業名称	水産業基盤整備の推進	目コード	4
事務事業コード	4010307	事務事業名称	単独事業費（水産基盤）	細目コード	1052
関連計画		法令・条例規則等	道路法・道路構造令		

計画 (PLAN)		※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。				
対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 地区住民		(対象指標1) 2戸、12人				
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
(全体計画) ・集落道新設を行うことにより、地域生活環境の向上を図る。 →全体計画延長 81m、幅員 3m →全体事業費 30,000千円	(平成24年度) 平成24年度に、測量設計及び家屋補償調査2棟を行った。また、新設に必要な用地は登記完了した。平成25年度より設計に基づく工事を実施する。	新設延長	0 (81) m	0%	新設延長÷ 計画延長	平成29年度
		新設延長	0 (81) m	0%		平成24年度
		① (達成率分析)	測量設計の実施により、完成はL=81mとなった。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
・本路線は、町道赤崎真手ノ浦線と接続した漁業集落道事業で新設された集落道路の延長である。本路線を完成させることにより、地域住民生活の環境向上を図る。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		住民生活の環境・利便性の向上	-	-	-	平成29年度以降
		① (達成率分析)	集落道路を新設することにより、生活環境の整備、利便性の向上が図られる。			
		② (達成率分析)				

実施 (DO)		※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。									
	単位	全体計画		23年度以前	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度以降	
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	①	m	81	0(81)	0(81)	0(81)	0(81)	0(81)	40(81)	25(81)	16(81)
	②										
成果指標	①										
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	34,200	3,335		3,335	3,335	5,900	6,700	6,700	6,700	4,865
直接事業費 A	千円	30,000	2,635		2,635	2,635	5,200	6,000	6,000	6,000	4,165
人件費 B	千円	4,200	700		700	700	700	700	700	700	700
内訳	従事職員数	人	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円	28,400	2,500		2,500	2,500	4,900	5,700	5,700	3,900
	その他	千円									
一般財源	千円	5,800	835		835	835	1,000	1,000	1,000	1,000	965

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ● ない	理由	漁業集落道の管理者である町が行うべきものである。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	事業の途中であるが、計画どおり事業は推進されている。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	ほぼ計画どおり事業は進捗しているので特別向上させる必要はない。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる ● いない	理由	最小の経費で最大の効果をあげる設計で実施している。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		● 代えられる ● 代えられない	理由	最小の経費で最大の効果を上げる設計となっている。また、設計の電算化等により省力化を図っており、現在の人員を削減することはできない。	

改善 (ACTION)

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	***** (平成24年度新規事業) *****
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2次評価	住民の安全で安心な生活環境の確保と整備、利便性を向上させるため計画どおり事業を進めること。
------	---

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。